

6・2万²m²の鶴見営業所を9月開設

国内30拠点目、高床式バースを採用

ダイワコーポレーション（本社・東京都品川区、曾根和光社長）は、30拠点目の国内物流倉庫となる「横浜鶴見営業所」

「鶴見小野駅」から徒歩約5分と通勤の利便性も高く、雇用確保に有利となる。

（横浜市鶴見区）を9月に開設する。延床面積6万2625㎡の地上4階建てで高床式バースを採用。同社では、多様化する顧客のニーズに対応する物流拠点として提案していく。

横浜市中心部と川崎市中心部に隣接し、首都高速神奈川1号横羽線「汐入IC」、「生麦IC」からそれぞれ2km以内に立地。直線距離で羽田空港から7km、川崎コンテナターミナルから6・5km、東京湾から14km、横浜港から5・6kmと海上・空輪を利用した輸配送拠点として活用できる。また、JR鶴見線

臨海部に位置するが、高潮による浸水リスクが非常に低いエリアに立地していることに加え、高床式バースを採用しており、顧客の商品がホコリや湿気などの影響を受けにくい構造になっている。施設屋上には太陽光パネルが設置され、断熱性の高い外壁を擁するなど環境にも配慮。1階には休憩室を設置するなど、「働きやすさ」を追求した施設設備となっている。

なお、床荷重は各階1・5t/㎡、軒下有効天高は各階5・5m。貨物用エレベータを1〜2階に5基、3〜4階に5基、垂直搬送機を1〜2階に2

基、3〜4階に2基備える。駐車場については乗用車117台分、大型車16台を確保する。

同社では、「今後もお客様のニーズにお応えする立地やお客様の事業継続に最適な物流拠点を展開し、さらなる物流サービスの向上を目指す」としている。



横浜鶴見営業所（完成イメージ）